

2019年度 全日本大会担当審判員研修会報告

1. 6月22日

ルールテスト 20分 ビデオテスト 20分 オープンブックテスト 20分

シャトルランテスト 60分 判定基準の統一①オフENSIBフアウル映像含 60分

A. レフェリーの使命 等 (説明抜粋)

チームやプレーヤーにトレーニングの成果を存分に発揮させる。

～コート内と交代地域の秩序を保つ～

- i. 競技規則に関する正しい知識に裏打ちされた判定
- ii. ラフプレーとスポーツマンシップに反する行為を排除する
- iii. 妥当性と信頼性のある判定
- iv. 心身ともにコンディションを整える
- v. その他
 - ・リオオリンピック後、ハンドボールの魅力を高めるためにモダンハンドボールが進められた。8の3(d)影響の部分をどう捉えるか。
 - ・以前は4年に1回ルール変更等の通達があったが、現在は大会ごとに通達がある。
 - ・トップレフェリーが「～だから(例 中学生だから)」という安易な考えになっていないか。
 - ・防御側プレーヤーを見る視点を持つ 等

2. 6月23日

判定基準の統一② 160分

B. トップリーグレフェリーの重点努力目標の資料等から（説明抜粋）

- ・「無駄な中断はさせない」→ モダンハンドボール
- ・笛を吹いたことには説明出来ること。また、タイミングも重要。
- ・笛を吹くと競技が中断される。そこから、審判の仕事は多くある。
- ・ジェスチャーは大きく一回だけ。
- ・攻撃を中心とした観察ではなく、「レフェリーの視線」は常に防御側プレイヤーの位置を的確に捉え、それに対する攻撃側プレイヤーの動きを的確に観察すべきである。
- ・7m スローの判定では接触のスタートがどうであったかを確認すること。等

C. パッシブプレーの映像から（説明抜粋）

- ・フリースロー後の1回目のパスで、パッシブプレーの予告合図を出すのは間違っている。攻撃側のチームは、短い組み立て局面を使って、次の攻撃活動を準備する権利がある。
- ・予告合図なしに、直接、パッシブプレーを判定することもできる。等

D. 質疑応答

- ・ゴールキーパーの遅延行為によるパッシブプレーのジェスチャーのタイミング
- ・攻撃側の明らかにゴール等を狙っていない遅延行為のスロー 等

E. 終わりに

今回の研修会に参加することで、「モダンハンドボール」のためのレフェリーとしての役割を整理することができた。また、防御側プレイヤーへの視点やパッシブプレー等に関して、全国的に統一した見解が理解できたため、今後のレフェリングで実践していきたい。全国大会に向けてさらに研鑽を積み、心身ともにしっかりした準備をして臨みたい。